（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和５年３月 28 日

県立港北高等学校長

令和４年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（３月８日実施）	総合評価（３月 15 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①新学習指導要領の主旨を踏まえ、生徒の特性等に応じた教育課程を編成し、適切に実施する。 ②社会の変化やニーズに対応し、生き抜くための資質・能力を養うため、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを推進する。 ③生徒会活動や学校行事等を充実させ、自主性・主体性・社会性を育成する。	①新学習指導要領による教育課程の定着をはかる。 ②「ICTを活用した授業力向上」をテーマとして、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを積極的に推進する。 ③生徒会本部や各委員会との連携を密にする。また会議や行事の実施にICTを利活用し、スキル向上を図る。	①新学習指導要領における最初の学年移行となる1年から2年への科目選択にあたって、3年次での教育課程の展開をふまえ、生徒が適切な科目選択により、進路実現に結びつけるため。説明会・資料の充実を図り、理解を図る。 ②授業力向上研修会(4回)、研究授業(1回)、授業互見週間(2回)を通し、ICT の利活用について、組織的な授業改善を推進する。 ③生徒会本部を中心とした各種委員会の組織づくりを図る。 Google Meet 等の利活用を進め、生徒会行事を活性化する。	①生徒が新学習指導要領に基づく教育課程の特長を理解しているか。 教員に旧課程との変更点が理解されているか。 ②各教科の自己評価、生徒による授業評価、ICT の利活用における教職員の意識行動調査に改善が見られたか。 ③生徒主体の活動により生徒が自己肯定感を得ることができたか。また、ICT を効果的に利活用できたか。	①6月に保護者向け説明会を実施した。1、2年とも多くの参加者があり、新課程について理解を得ることができた。生徒・保護者に対する選択希望調査、集約も従来通りの実施できた。 ②生徒による授業評価において、1年生には ICT 関連の質問を追加した。良好な回答が 50%を超えた科目は、7月は 2 科目だったが、12 月には 4 科目に増加した。教員の意識行動調査により、授業における教員の ICT 技能が高まっていることが明らかとなった。 ③生徒会オリエンテーション、生徒総会や文化祭の閉会式などで Google Meet を活用し行事を実施することができた。また、体育祭や文化祭については生徒の委員会を活性化し、生徒主体の行事になるべく支援することができた。	①自由選択科目の履修希望者に偏りが大きく、開講講座数と教員配置との調整が、大きな課題としてあげられる。 ②ICT を活用することが目的化し、ICT 活用により高める生徒の資質・能力についての議論が不十分であった。次年度の研修会においては、その点を踏まえた上で、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すテーマを設定する必要がある。 ③来年度の行事について、年度終わりまでに生徒の委員会を開き、さらに生徒が達成感を得られるような仕掛けをしていきたい。	①新学習指導要領の年次進行に伴う学びのあり方の変化に対して、コロナ禍の状況において丁寧に対応していることがよく分かった。今後の取組に期待したい。また、授業互見週間等授業力向上に取り組んでいるのはすばらしい。 ①授業の振り返りについては毎時間やることに意味がある。主体的に学ぶ姿勢を育成するために、生徒のモチベーションを高めながら、気づきの指導を続けてほしい。 ②「魅力と特色づくりアンケート」の結果について、保護者と生徒の間で、回答について差があるのが興味深かった。生徒は、学校生活全般について肯定的にとらえており、充実した生活を送っていることが感じ取れる。 ③体育祭、文化祭等少しずつ平常時の取組に戻りつつ状況であることはよくわかった。生徒の思い出づくりをこれからも大切にしていただきたい。	①新学習指導要領の年次進行に伴い、各教科で、指導目標、評価等についての検討を重ねた。また、教育課程の見直しにより、選択科目の多様な履修が可能になった。この点について、保護者対象の説明会を行い、多数の出席者を得て、周知することができた。 ②授業互見週間等を活用して、授業力向上研修を行い、教科の枠を超えた全体としての授業の質の向上を目指し、一定の成果を上げた。 ②ＩＣＴの利活用については、授業改善の主要なテーマに設定し、全職員共通の取組とした。「授業評価アンケート」においても端末利用に関する項目を追加設定したが、前期（６月実施）に比べて後期（12 月実施）では肯定的な回答が増え、徐々にではあるが教職員の多様な取組の成果が出てきたと考える。１人１台端末の施策が、次年度は１、２学年対象となるため、今後とも授業での活用について取組を深めていく必要がある。 ③体育祭、文化祭については、入場制限をかけながらも日程通りに実施することができた。来校者の反応はおおむね好評であった。生徒の活動保障という点においては、今後状況を見ながら段階的に緩和の方向で行事運営に対して取り組む必要があると考えている。	①「主体的・対話的で深い学び」について、本校が継続的に取り組んできた授業力向上について、さらに積極的に推進していく。特に、「総合的な探究の時間」を全面的に見直していく中で、課題探究のメソッドを全体で確立していく取組を次年度以降の目標のひとつにしていく。 ②学習活動の質的向上を図るため、ＩＣＴ利活用を含む教材、ツールの研究について、継続的に取り組む。教科の枠を超えて、授業のあり方について協議、研修する場を設け、その成果をフィードバックしていくよう働きかける。 授業（単元）目標を明確に示し、振り返りの機会をとらえて学習到達度を向上させるよう、生徒への働きかけを積極的に行う。 ②１人１台端末の配備が１、２学年にわたることから、端末の利活用についてさらに推進していく。 ③新型コロナ感染状況等情勢の変化をふまえた上で、生徒が主体的に学校行事の運営、活動に携わる機会を設ける。生徒一人ひとりの達成感、自己肯定感を育成するよう積極的に働きかける。
2	生徒指導・支援	①生徒一人ひとりが安心・安全な学校生活を過ごせるよう、教育環境や支援体制の充実を図る。 ②部活動を通して、協調性・責任感・連帯感	①生徒理解を基本とした支援を実践し、生徒の基本的生活習慣の確立及び規範意識の醸成を目指す。 ②新型コロナウィルス感染予防対策を十分に	①生徒一人ひとりが基本的生活習慣や規範を意識し、心身共に安全で健康な学校生活を送るためのサポート体制を整備する。 ②生徒の健康面・安全面に配慮し、かつ生徒が主体的に部	①生徒が必要な支援を受けることにより、課題解決に至るケースが増加したか。 ②部活動が効果的かつ円滑に実施できたか。	①教職員によるサポート体制が機能し、生徒の大多数が基本的生活習慣や規範を意識して学校生活を送っている。 ②部活動について感染防止対策を十分に講じ行うことができた。夏季休業中には	①複雑なケースでＳＣ、ＳＳＷ等の専門家の助言を受けても容易に解決しない場合がある。 ②引き続き感染防止対策に努め、部活動の活性化を図る。	①メンタル面でのサポートが必要な生徒が増加しているとのことだが、丁寧な対応をこれからも続けてほしい。 ②厳しい制約のあった中での部活動の実績はすばらしい。これからも応援していきたい。 ②合宿ができたことは大きなことである。教職員の苦労を感じ取るこ	①メンタル面において人間関係の構築に課題を抱えるケースが例年以上に多かった。ＳＣ、ＳＳＷと密接に関係を取り、必要に応じて外部機関との連携を図りながら、生徒、保護者に対して丁寧に対応していく必要がある。 ②部活動については、合宿を実施した部も複数あり、活動の励みになった。また関東大会、全国大会等に出場する実	①コロナ禍において人間関係の構築に課題を抱える生徒のケースが増えたことから、学校・保護者等・外部機関（ＳＣ、ＳＳＷ等）の連携をより強め、丁寧に対応できる体制を充実させていく。特に、ＳＣが全校配置になり、活用しやすい条件が整備されつつあることから、積極的に連携していきたい。 ②全国大会レベルで活躍する生

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月８日実施）	総合評価（３月 15 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		の涵養を図るとともに自発的な行動力を育成する。	講じた部活動指導・運営ができるよう支援する。	活動に取り組めるよう、活動環境の整備と内容の精選をする。		合宿を行うことができた。		とができる。	績をあげてきた部も多く、今後の活動にその成果を生かしていきたいと考える。	徒が増えてきたことから、生徒の活動を保障する施設、予算面での条件整備を続けていく。
３	進路指導・支援	①3年間を見通した体系的なキャリア教育を実践し、生徒の自己実現力を高める。 ②生徒の個性や多様な進路希望に適した進路支援体制の充実、拡充を図る。	①学年間で連動したキャリア教育を構築し、生徒が主体的に自らのキャリアプランを構想、実現できる力を育成する。 ②生徒の個性や多様な進路希望に対応したガイダンス体制を充実させる。	①各学年で企画・実践したキャリア教育の内容を全学年で共有する。校内模試や小論文講座等を効果的に活用する。 ②進路情報の共有や研修会の実施により、校内の進路ガイダンス体制を充実させる。	①キャリア教育の内容が進展したか。校内模試等について実施の前後を含めた計画が立てられ、実施できたか。 ②それぞれの生徒のニーズに応じた進路相談に対応できたか。	①3年の校内模試3回を、前後の学習を含め計画的に実施することができた。 ②夏季休業中の三者面談において、学年で共通理解を待って進路指導を実施した。各学年で進路説明会等を実施できた。	①1，2年の1月模試と小論文講座について、生徒が主体的に取り組む計画を立てる。 ②新年度に向けたような進路希望に対応する説明会を計画する。	①単なる進学指導に終始せず、キャリア教育を基盤にして進められている点は、進路指導の本質を抑えた取組であり、高く評価されるものである。 ②今後とも「総合的な探求の時間」による課題探究と結びつけながら、生徒のキャリア形成に取り組んでほしい。	①各学年の校内模試を体系的に実施することができた。１、２年次の蓄積が、３年次の進路選択に結びつくことを意識付けしながら、キャリア形成に取り組んでいきたい。また、大学入試制度の変更に対応できるよう、情報収集に努めていく必要がある。 ②生徒一人ひとりのニーズに合わせて丁寧に指導していく必要がある。三者面談等を通じて、保護者等とも連携しながら、継続的にキャリア形成に取り組みたい。	①校内模試を体系的に実施する体制が整備されてきたことから、今後は蓄積されるデータを有効に活用するための教員研修の充実を図り、生徒のキャリア形成、進路指導に反映させていくよう取組を強化する。 ②各種説明会、三者面談等を通じて、生徒一人ひとりのキャリア形成を丁寧に行う。また教員のカウンセリングマインドを向上させる機会を設け、多様なニーズに対応できるようにする。
４	地域等との協働	①地域との連携・協働により、「開かれた学校づくり」を推進する。 ②保護者・地域への情報提供に努め、家庭・地域の支援体制を充実させる。	①学校行事や地域行事、地域防災等において、地域と連携した教育活動を実施する。 ②本校の教育活動について、学校HPにより積極的に情報を発信する。	①近隣の小中学校の行事や、地域防災活動等に生徒も含めて積極的に参加し、日常的な交流を図る。 ②閲覧しやすい学校HPの構築に努めるとともに、タイムリーかつ積極的に内容を更新する。また、生徒、保護者等の意見を取り入れ、内容を精選する。	①地域との連携、協働を推進することができたか。 ②閲覧しやすく、タイムリーな情報をHPに掲載することができたか。また、中学生の志願状況等に、学校HPの改善効果の波及がみられたか。	①新型コロナウィルス感染の傾向が続いている中で、学校行事、地域連携について、対策を講じながら推進できるように取り組んだ。 ②学校ＨＰにおいて、新たな情報を 41 回掲載した。コンピュータ部が作成した学校紹介動画を掲載するなど、生徒のアイデアを活かした HP 作成を進めた。	①体育祭、文化祭については、保護者参観を一部制限付きで行ったが、地域連携については難しい状況もあった。今後、行事への取組について実施形態、内容等検討を重ねる必要がある。 ②部活動等においては、それぞれの担当者が HP を更新することになっている。しかしながら、更新が遅れることがあることから、随時呼びかけていきたい。	①地域の学校という観点から、周辺住民は見ている。地域防犯という観点から、特に自転車マナー等については、学校でも指導を続けてほしい。 ②学校紹介のＨＰをツールとして情報発信を進めてきたことは、情報の即時性という点ですばらしい取組である。 ②ＨＰの映像から生徒の思いが伝わってきて好ましい印象を持つ。これからも、生徒の目線を大切にしていってほしい。	①体育祭、文化祭等の学校行事については、感染対策を施しながら、保護者の来場制限を緩和して実施した。校内での生徒の活動の姿にふれることにより、学校への理解度が増したことは一定の効果があった。 ②ＨＰの作成に生徒の視点を入れたことにより、より分かりやすく伝わりやすいものができた。 ③ＨＰの更新については、まだ不十分な点があり、頻繁に発信する部分とそうではない部分との間に差が生じた。今後は、随時発信に向けて。ＨＰ担当者がある程度コントロールする等の取組が必要である。	①地域の行事への参加、近隣の小中学校との交流については、段階的に再開してきているが、３年度前からの継承性については課題が多い。今後は、連携先と十分に協議しながら、円滑に運営に参加できる体制を作っていく。 ②より活発な情報発信をするために、グループ業務の見直しを行うとともに、全体のバランスを考慮した適切な発信スケジュール管理、発信内容の精査に取り組む。 ②ＨＰの更新において生徒の視点を大切にするという意見をいただいており、より分かりやすく親しみやすい情報発信を心がけていきたい。
５	学校管理 学校運営	①学校運営協議会を活用しながら地域との連携・協働を推進し、地域とともに歩む学校づくりを推進する。 ②定期的に不祥事防止研修会を実施し、教職員の危機管理意識を高める。 ③生徒と向き合う時間を確保するために、教員の働き方改革を推進する。	①昨年度の学校運営評議会において指摘された課題を学校経営に活かす。 ②不祥事ゼロプログラムの取組を継続し、事故防止やハラスメントの根絶に努める。 ③業務の可視化、内容の精選を行い、生徒に十分な対応ができる学校づくりを目指す。	①新型コロナウィルス感染状況をふまえて、諸機関と連携し、学校教育の活性化を図る。 ②業務内容を絶えず検証し、特に個人情報の適切な取り扱い、人権意識の啓発を図る。 ③業務の可視化により、業務内容を整理し、生徒主体の教育活動が十分に図れるよう努める。	①検証課題を改善し、より具体的な学校教育の活性化に結びつけることができたか。 ②事故、不祥事に対する当事者意識を高め、未然防止に努めることができたか。 ③業務内容の見直しを具体的に進め、教育活動の活性化に結びつけることができたか。	①地域との連携・協働については順次再開された行事を中心に、連携を深めた。また、横浜開港祭の花火会場にグラウンドを提供する等、市全体の事業にも参画した。 ②月1回のペースで不祥事防止研修会を実施し、危機管理意識の啓発を行った。 ③職場アンケートの実施等を通じて職場環境の改善に取り組んだ。	①新型コロナウィルス感染の傾向が収まらず、状況判断が難しい中での取組となっている。今後も試行錯誤の状態が続くものと考える。 ②教職員の危機管理意識の啓発は、継続的に行う必要があり、「なれ」からくる油断を回避することが課題である。 ③業務の可視化、効率化については業務内容の見直しも含め継続的に取り組む必要がある。	①新型コロナウィルス感染をめぐる扱いが今後変更にあるが、学校としても十分に対応していってほしい。 ②不祥事防止研修等が計画的に実施されており、危機管理意識をしっかり持って学校運営が行われていることがよくわかった。	①新型コロナウィルス感染症対策については、国及び県の指針（指示）に従って、現場での対応が求められることが多い。今後も、社会情勢及び学校の状況をふまえて、臨機応変に対応する必要がある。 ②不祥事防止については、県の資料等を活用して、時機をとらえて職員の意識啓発に取り組んだ。特に今年度は、ハラスメント、生徒指導について重点化した。これからも課題意識を持ちながら、日常の業務に取り組んでいく姿勢を持ちたい。 ③働き方改革の意識の浸透については、まだ十分ではない点がある。今後も継続的に取り組む必要がある。	①地域、ＰＴＡ、学校運営協議会等との連携は、開かれた学校づくりに向けて重要な要素であり、今後もよりよい関係性を構築していく。また、キャリア教育、部活動等における校外人材の活用を積極的に行い、生徒の諸能力育成に取り組む。 ②入学者選抜業務、予算執行等について事故防止に努めるよう、日常業務でのチェックを行う。また、人権意識の啓発を重要な課題としてとらえ、生徒指導の場において適切な指導に取り組む。 ③令和４年度にグループ業務の見直しを行ったが、働き方改革の方法性を見据えながら、さらに業務内容の精選に取り組む。